

# 地域おこし協力隊年度活動報告(令和2年度)

---

不要不急の芸術文化

2022年3月16日  
梶原涼晴

## もくじ

1. はじめに(劇団設立へのロードマップ)
2. 三浦按針没後400年・日蘭交流420周年記念舞台公演
3. オンラインでできることかたっぱし
4. 「ANJIN A NAVIGATOR OF LOVE」東京での挑戦
5. 「ANJIN A NAVIGATOR OF LOVE」ショートフィルム製作・公開
6. 総括

# 1. はじめに(劇団設立へのロードマップ)

2019年5月に臼杵市地域おこし協力隊として着任した初年度、「感動体験」を通じた質の高いコミュニティ構築を目標とし、東日本大震災追悼舞台公演「RADIO311」を臼杵市民会館で、そして大友宗麟をモチーフにした舞台公演「SORIN THE INNOCENT LORD」を久家の大蔵で実施することができました。



そして二年目、同じく地域おこし協力隊として一年遅れて合流した力強い戦力、林佑太郎と掲げていた目標は、

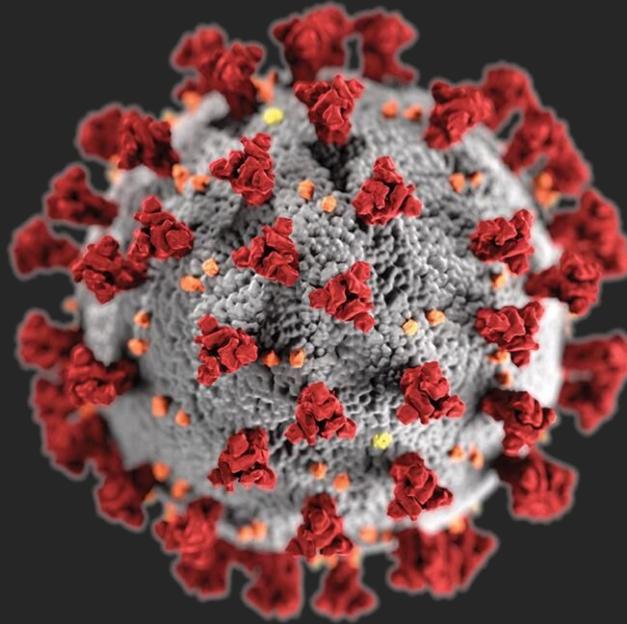


「劇団ムジカ」の旗揚げでした。そしてそれは、単に協力隊任期中における建前上の目標設定と言うよりは、僕自身生涯に亘って臼杵を拠点に芸術活動が続けていくことを決意した時からそのロードマップに組み込まれた構想でもあったのです。そして旗揚げ公演の時期、そして演目に関しては、これ以外にないというくらい格好のモチーフがあったのです。その名も、

*William Adams*

「蒼い目のサムライ」三浦按針

しかし、、、そこへ招かれざる客が(‘旦’)



2019年暮れから世界中を襲った新型コロナウイルスによって、劇団設立構想はおろか演劇鑑賞そのものがいわゆる

**「不要不急」**

の代名詞となってしまいます。

## 2. 三浦按針没後400年・日蘭交流420周年記念舞台公演

新型コロナウイルスが国内に上陸してからというもの、「不要不急」、「自粛」といった言葉がまるで拘束衣のように全身を縛り、全く身動きができない、仮に動いたとしても、それを公然と誰かと共有できない、そんな時間がだいぶ長く続きました。三浦按針没後400年にあたる2020年春に予定していた舞台公演はもちろん無期延期。当時は(今も)誰もが先の見えない不安に苦しんでいた状況、当然の判断でした。



日蘭交流420周年・三浦按針没後400年記念舞台公演

ANJIN A NAVIGATOR OF LOVE

**無期延期**

# 演劇＝不要不急

この言葉には否定しきれない説得力がありました。確かに今、演劇が世の中からなくなっても、誰かが命を落とすわけではありません。

当時徒党を組んで補償補償と騒いでいたのは皆、演劇関係者。演劇で生計を立てていた人たちです。

ならばまだ演劇が根付いていない臼杵はどうでしょう。結論は、誰も困らない、ということ。

ただ、僕の中にべったりとこびりついた危機感のようなものはなくなりません。

演劇や芸術に触れる機会が失われることによる影響は、果たして演劇関係者だけに留まるのだろうか・・・

いやそれよりも、人と人の関わりや触れ合いが失われることが精神に与えるダメージは、将来的に取り返しのつかない規模になるのではないか・・・

今、自分にできることはないだろうか・・・

コロナ終息を待たずに、今できること、今すべきこと・・・

### 3. オンラインでできることかたっぱし

これという正解が見いだせないまま漠然とした危機感に導かれ、オンラインでできる様々なことをかたっぱしから・・・

#### ■青少年への取り組み(児童クラブでのオンラインコミュニケーションプログラム)

演劇を通じたコミュニケーションプログラムを実施、子供たちと一緒にコミュニケーションとイメージングの大切さを共有しました。



#### ■俳優を目指す人々への取り組み(オンライン無料体験レッスン/オンラインディベート企画)

現場がない、オーディションがない、そんな今こそ、彼らに提供できることを模索、試行しました。



これらの取り組みがどんな効果が期待できるかよりも、立ち止まりたくない、その思いがすべてでした。

## 4. 「ANJIN A NAVIGATOR OF LOVE」東京での挑戦

三浦按針没後400年・日蘭交流420周年記念舞台公演が無期延期を受け、オンラインでできる活動を必死で模索し続けてきましたが、コロナの勢いは収まらないどころか、パンデミックは益々人々の肉体と精神に浸食していきます。

臼杵での舞台公演も年内の実施が絶望的となり、ならば僕が愛した臼杵というまち、臼杵に暮らす人々への想いを、直球勝負で東京にぶつけてみることに。時は2020年暮れ。もちろん当時の東京は臼杵など比較にならないレベルでコロナ禍真ただ中、感染者数もいつ感染爆発につながるか時間の問題と言われていた頃です。他団体が軒並み公演キャンセルという決断を下す中、やはり来場者数は半分どころか従来の3割以下。それでもご来場くださったお客様ひとりひとりに用意したフェイスガードをつけていただき、10公演を無事上演することができました。フェイスガードとマスクを一人残さずつけ、静かに頷きながら僕たちに温かい拍手を送ってくださったお客様……舞台上から見たあの景色は、生涯忘れることはありません。



そしてこの東京公演の決行が、浅草九劇演劇大賞特別賞の受賞、ショートフィルム製作、劇団ムジカ旗揚げ公演実現への布石となります。

## 5. 「ANJIN A NAVIGATOR OF LOVE」ショートフィルム製作

東京での挑戦を終え、もちろん先述のような達成感があったものの、僕の中ではコロナ禍が始まった時から抱えていた危機感が益々肥大化していました。

もはやスタンダードとなった「ソーシャルディスタンス」は、  
心の距離も引き離し、そのうち心はその動き方を忘れてしまう・・・

でも、臼杵で芝居はできない。残念ながらこの町では、舞台公演をすることのメリットよりも、リスクを冒すことへの抵抗感の方が遥かに強い・・・

### ならば！

まるで天国の按針に導かれるようにショートフィルム企画が浮上、前年に予定していた記念舞台公演が中止となったことを受け、

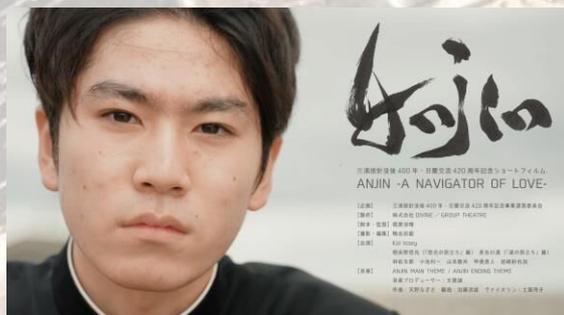
臼杵市の後方支援のもと大分県のコロナ緊急対策補助金制度を活用して製作できるようになったのです。

舞台演劇に魅せられてCM業界を離れた中年が、昔取った杵柄よろしく映像に容易に手を出すのも憚られるところでしたが、背に腹は、です。

だって僕は人の心を揺さぶりにここに来たのだから。臼杵の人々に向けて少しでもそれができるなら、舞台へのこだわりは二の次。

そんな経緯でショートフィルム「ANJIN A NAVIGATOR OF LOVE」は、臼杵市、大分県、応援してくれているたくさんの方々の温かい支援を受け、

1年遅れの記念事業として実現しました。



サンディエゴフィルムフェスティバル助演男優賞受賞俳優、Kai Issey君を按針役に迎え、5日間に亘り黒島、佐志生、旧稲葉邸、久家の大蔵、臼杵城、怒涛のオール臼杵ロケ！



以下のサイトでご視聴いただけますので、まだご覧になっていない方はぜひご覧ください。



ANJIN - A NAVIGATOR OF LOVE - 「悠光の旅立ち」篇 日本語吹替 (<https://youtu.be/-T-K7IDf9ZM>)  
ANJIN - A NAVIGATOR OF LOVE - 「凜の旅立ち」篇 日本語吹替 (<https://youtu.be/L-w1jfQmcH8>)

## 6. 総括

こうして協力隊としての二年目は、コロナ禍のもとで過ごした葛藤の日々だったように思います。

二年目の成果は、想定外のコロナ禍のもとで漠然とした危機感はあるながら自分の中に確信に近い理念が生まれたこと。それは、  
今こそ、演劇は必要不可欠なんだ、ということ。  
それも、近年残念ながら主流を占める極端な利益追求型商業娯楽のようにスポンサーや特定のファンのための限られたものではなく、  
すべての人々がコミュニケーションとイマジネーション、そして感動できる心を取り戻すための道具として。

三年目も、未だ終息の目処が立たないコロナ禍のもと、七転八倒、試行錯誤を繰り返しながら、  
出自である東京を情報発信の起点として、人と人とを交錯させるHUBとして、最大限有効活用し、  
臼杵を拠点に演劇を通じた日本再生に取り組んでいきたいといます。